



讃志会

質問者

ひがしかわさぶろう 東川三郎 議員

所属議員

みたに わたる 三谷 渡 議員

おおやまもりひさ 大山盛久 議員



用地確保で企業誘致の促進を

議員 港町の県営工業団地に萩原工業の進出が決まり、小林市長就任以降、笠岡市への企業誘致は11社となったが、企業誘致はまだ道半ばだと考える。今後の用地確保をどうされるのか。

市長 市内の公的工業用地はほとんどの企業の立地が決まり、空いている土地が少なくなってきた。しかし、本市の財政状況から、行政主導で工業団地を整備することは難しく、民間活力での工業団地整備も、場所の選定や用地買収など課題が多く、相当の期間が必要である。そこで、売りや賃貸に出ている土地、民間企業が所有する未利用となっている工業区域、準工業区域内の土地、使用していない公有地など、所有者に働きかけ、購入や賃貸を希望する企業に

タクシー券交付の条件緩和ができないか

議員 タクシー券の交付について、移動手段に困っている75歳以上の方々にとってはありがたい施策だが、条件が厳しいのではないかと、条件緩和の考えは。

政策部長 タクシー料金助成事業は、利用者から好評をいただいているが、中心部から遠い地区では利用しにくいという側面が浮かび上がっており、1乗車で2枚以上タクシー券を使用したという声をいただいている。平成31年度からは、1乗車の運賃が1000円を超える場合は2枚まで使用できるようにする。今後も利用状況や市民の皆さんの声を聞きながら、様々な検討を行い、よりよい制度の構築に努める。

対し、情報提供を積極的に行うことで誘致につなげていきたい。

小林市政の3年間で振り返る



立真会

質問者

さかもとすみあき 坂本公明 議員

所属議員

はらだ 原田てつよ 議員



議員 3年間で顧みてる率直な思いと、次の点についての今後は。
①財源の確保②人口対策③教育行政④福祉行政

市長 良い面も悪い面もあったが、肝に銘じ最後の1年を勤めたい。これまでの3年間は、国道2号バイパスの本格着工や、港町工業団地への企業進出、民間業者の設備投資など笠岡市は目に見えて変化してきた。経済の好循環を地域経済の活性化につなげていきたい。
①企業誘致やふるさと納税、市有地の売り払いなど歳入の確保に努めてきたが、市税の伸び悩みと普通交付税の減などにより財源不足を補うまでにはなっていない。全ての事業をゼロベースで検討しコスト削減をしていく。長期的視点では総合計画の経営戦略に基づき、
②転入転出の差である社会動態が笠岡市は徐々にではあるが改善の兆しが見えている。2019年には社会動態をプラスマイナスゼロにすることを目標にし、移住・定住人口を増やしていく。
③井戸平左衛門賞や検定受検料の助成制度を創設してきた。子どもたちが何か一つでも人に誇れるものを持つことで自信を持ってもらいたい。全国学力・学習状況調査で笠岡市が県のナンバーワンになれるよう学力向上を支援していく。
④全世帯、全対象型の地域包括ケアシステムの構築を目指している。今後も総合計画の地域福祉の基本方針として、住み慣れた地域で共に支え合い、助け合いながら、暮らし続けることができるよう進めていきたい。